

テーマ：縄文遺跡群（実践校）

空知管内 砂川市立砂川小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間と社会科の学習を関連させて、縄文時代の日本の暮らしにおける特色や出来事について、多角的に調べるとともに、外部講師を招聘した講話等を通して、自分たちの生活との関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

縄文時代の日本について、遺跡や出土品・年表などの資料の調べ学習や体験的な学習等を通して、縄文時代の日本の暮らしにおける特色や出来事、人物の関連、意味について多角的に理解し、自分たちの生活との関わりについて考え、ふるさとの歴史や、伝統を大切にしようとする態度を養う。

取組の様子

（1）課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、縄文遺跡群に関する各種資料、インターネットを使って調べたことから、一人一人が縄文文化の特色や歴史、自分たちの生活との関わりなどについて探究課題を設定しました。



【学芸員の講話の様子】

（2）情報の収集

学芸員による講話や修学旅行、砂川市公民館郷土資料室及び北海道教育委員会提供「縄文遺跡VRツアー」を活用した調べ学習を通して、縄文遺跡群の歴史や文化についての情報を収集しました。



【出土品に触れる児童の様子】

（3）整理・分析

1人1台端末を用いて、収集した情報を整理するとともに、児童同士の学習経過の交流やジャムボードを活用した協議を通して、縄文遺跡群の特色や自分たちの生活との関わりについて理解を深めました。また、外部講師の講話を通して学んだことや考えたことについて共有・交流しました。

（4）まとめ・表現

一人一人が作成したスライドを用いて、児童同士や保護者を対象に複数回発表し合うことを通じて、縄文遺跡群の特色や歴史についての理解を深めるとともに、自分たちの生活との関わりについて考えを深めることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・一人一人が課題解決に向けて学習を進めることができるよう、課題の設定の場面で、取り組む課題を明らかにしたり、解決の方向性について見通しをもったりする場面を位置付けました。
- ・1人1台端末を用いたスライドの作成とジャムボードを活用した交流等の取組により、学びの蓄積と共有を図りました。

実践の振り返り

- ・「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、学習の柱となる活動や場面を明確に定めた探究的な学習を進めたことにより、学びの蓄積と他者との共有を通じた学習を一体化させることができ、ふるさとの伝統や歴史を大切にしようとする態度を養うことができました。
- ・各教科等の学習内容と関連付け、外部講師の招聘や地域施設の活用を図るなどのカリキュラム・マネジメントを充実させることにより、ふるさとへの愛着や誇りを一層育むことが期待できます。